

(※第 4 回八戸市総合計画策定委員会資料)

市民との意見交換の実施結果

1. 意見交換の実施概要

(1) 意見交換の目的

- ・市民アンケートの他に、直接、市民から意見を聞く機会を設けて、第 6 次総合計画の計画策定に市民の声を最大限反映することを目的とした。

(2) 意見交換の方法と対象者

- ・第 6 次総合計画の検討状況など、概要を説明して、八戸市の目指すべき姿、将来都市像、まちづくりの方向性などについて、意見交換を行い、まちづくりに対する考えやニーズなどを把握した。

▼意見交換等の方法と対象者

意見交換等の方法		対象者
グループ ヒアリング	・八戸市の問題点・課題や目指すべき姿などについて、若年層、子育て世代、地域代表者、市民活動団体など、特性が違う対象の意見を把握した。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生(3 高等教育機関) ・子育て世代 ・地域団体 ・市民活動サポートセンター登録団体 ・女性チャレンジ講座受講生
市民ワーク ショップ	・八戸市の良さ、問題点・課題、将来像、まちづくりの方向性全般などについて、公募市民から提案を受けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・公募した一般市民 (20 名程度)

(3) 意見交換の進め方

- ・総合計画策定の趣旨、意見交換の目的、第 6 次総合計画の検討状況などの資料説明の後、八戸市の目指すべき姿、将来像、まちづくりの方向性などについて、テーマを設定し、ディスカッション形式で意見交換を行った。
- ・市民ワークショップについては、3 グループにわかれディスカッション形式で意見交換を行った後、グループごとに発表を行い、総括してとりまとめた。

(4) 意見交換の実施日程とテーマ

・以下の日程で意見交換を行った。

▼グループヒアリングの日程等一覧

No.	日程	意見交換の対象	テーマ
1	10月08日(水) 18:00～19:30	市民活動サポートセンター 登録団体	・市民活動団体として取り組んでいること、取り組みを進めるうえでの問題点
2	10月09日(木) 14:00～15:30	八戸学院大学の学生	・生活している中で感じる八戸市の問題点と魅力を感じて住み続けたいまちになるために必要なこと
3	10月15日(水) 11:30～12:30	子育て世代	・普段、子育てをされていて感じる問題点と安心して子育てを行うために必要なこと
4	11月06日(木) 13:30～15:10	女性チャレンジ講座受講生	・女性の視点から普段から感じる八戸市の問題点と改善に向けて必要なこと
5	11月06日(木) 16:10～17:40	八戸工業大学の学生	・生活している中で感じる八戸市の問題点と魅力を感じて住み続けたいまちになるために必要なこと
6	11月10日(月) 15:30～16:30	地域団体 (市連町連絡協議会理事)	・町内会運営、地域コミュニティ、安心・安全など住民生活における問題点と住みよい地域づくりに必要なこと
7	11月11日(火) 15:00～16:30	八戸工業高等専門学校の学生	・生活している中で感じる八戸市の問題点と魅力を感じて住み続けたいまちになるために必要なこと

▼市民ワークショップの日程等一覧

No.	日程	意見交換の対象	テーマ
1	10月19日(日) 14:00～16:30	第1回ワークショップ	・八戸市の良さ、まちづくりへの活かしどころ ・日常生活の中で感じている問題点とその改善に向けて必要なこと
2	10月26日(日) 14:00～16:30	第2回ワークショップ	・八戸市の将来像(キャッチコピー) ・実現のために必要なこと
3	平成27年 5月17日(日)	第3回ワークショップ	・八戸市の目指す姿の実現に向けて (予定)
4	平成27年 5月24日(日)	第4回ワークショップ	・八戸市の目指す姿の実現に向けて (予定)

2. 意見交換の実施結果

(1) グループヒアリング

対象者	市民活動サポートセンターの登録団体	No.	1
会場	八戸市総合福祉会館 「はちふくプラザ ねじょう」	開催日時	平成 26 年 10 月 8 日 18 : 00~19 : 30
出席者	市民活動サポートセンターの登録団体 6 名 事務局 5 名 計 11 名		
<p>1. 市民活動団体として取り組んでいることとその中で感じること</p> <p>(1) 災害ボランティアコーディネーター連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時などの有事の際、行政には対応すべき役割があるので、町内会が中心となって、助け合うことが必要となる。 ・当協議会では、阪神淡路大震災の時より色々と勉強しており、東日本大震災の際は、八戸ボランティアセンターを立ち上げて運営した。震災時に行った活動内容を周知する活動（説明会等）を実施したいと考えている。 ・現在、当協議会の人数は 11 人で一般の方は少ない状況となっている。当協議会で実施するセミナーの受講者は多いが、ほとんどは行政と消防の方で、一般の参加者は少ない。 <p>(2) 八戸緩和ケアを考える会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民病院の緩和ケア施設は、ガンや痛みを持つ全ての方に利用していただける施設が好ましく、ケアをして社会生活が送れるような対応を目指して欲しい。 ・緩和ケア病棟整備検討委員会に、専門の先生が入ってほしいと思っている。 <p>(3) 科学であそび隊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年を対象に活動を行っている。活動頻度は月 2 回で、場所は科学館や公民館で実施している。1 回あたり 20~30 組の親子連れが参加しており、科学に対して意識が高い方は家族でリーダーとして参加している。 ・市の広報にイベント情報を掲載しても小さい子は読まないのので、情報の伝達方法を考え、利用者を増やすことが必要となる。 <p>(4) NPO 法人はちのへ未来ネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援と次世代育成活動をこどもはっちを中心に行っている。 ・引きこもりや子育て世代で孤立している人たちを地域とどう繋げていくかが問題となっている。価値観が多様化する時代だが、緩やかに繋がっていれば災害時に助け合える。 ・市民団体と町内会の連携で、集会所を活用するなどして、活動を活性化したいと思っている。 <p>(5) ボランティアグループ「あいの手」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活センターで相談を受ける活動を行っている。 ・県消費生活センターにおける平成 25 年の調査によると、被害者の 3 割は高齢者で 465 人、被害額平均は 1,615,000 円となっている。これを防止すれば経済にお金が回る。ちなみに、全年齢の被害額平均は 926,000 円で青森県内の被害総額は 9 月で既に 3 億円となっている。 ・個人を主体に考え、防災・交通など 1 人に対して、きめ細かな行政サービスを行うことが必要だと思う。滋賀県野洲市では、暮らしの窓口对生活相談に来た人に対してプロジェクトチームができ、連携して解決していくサービスを展開している。個人情報を出しても良いかを本人に確認した上で行っている。 			

2. 取り組みを進める上での問題点と必要なこと

(1) 情報の発信・共有について

- ・八戸市と共同で事業を展開し、情報を共有したい。現状では詐欺などの被害にあっても町内会は個人情報の関係で、その情報を入手できない状況となっている。
- ・一度被害に合うと何度も狙われる。個人情報の取り扱いはルールを決めれば可能だと思うので、市役所で把握して、必要な場合は情報を伝えることが必要だと思う。
- ・現在は町内のどこに子供がいるのかも分からない状態なので、子供を守るために適切に情報を使うことが必要だと思う。
- ・八戸市は情報を広報で発信して終わっている印象がある。青森県の短命県返上の取り組みは情報を多く発信して、市民で共有することが必要だと思う。イベントなども終わった後に知ることが多く、事前に知っていれば参加したかったという話もある。
- ・情報発信は、LINE、Facebook、twitterなどのツールを使うと良いと思う。特に子育てに関する情報は重要だと思う。また、介護で孤立している人への情報提供も重要だと思う。

(2) 高齢者対策について

- ・安心して、徘徊出来るまちづくりが必要だと思う。
- ・高齢者を見守る家族は大変なので、閉じ込めず、個人の生活の質上（クオリティオブライフ）を向上させる取り組みが必要だと思う。
- ・介護施設は多いが、デイサービスなどで理学療法のように散歩したり、介護予防が重要だと思う。
- ・認知症の方への声掛けには方法があり、プラスの言い方で聞いたりするなどの工夫がある。これには練習が必要となる。認知症については、60歳になったら全員に認知症テストを行うなどし、早めに認知症対応が必要となる。
- ・高齢者の意識を高める仕組みについて、例えば60歳になった方へ教育事業などを実施することが良いと思う。生きがいを持って自立してもらうことが必要となる。

(3) 社会参加について

- ・現状は、一部の意識の高い住民が先頭に立って進めている状態となっている。若年層が少なく、自分に関係ないという意識の方が多い。特定の住民だけでなく、みんなが参加する形を作りたい。
- ・例えば、ゴミゼロ活動に関しては、年々参加者が減少している。独自のチラシを町内会に加入していない方にも配布しているが、こういった広報は、住民と行政が一つになって行わなければ効果は上がらないと思う。

(4) その他について

- ・周囲の方への声掛けはまちづくりの基本となる。周囲の方々とはゆるやかに繋がるべきだが、なかなか出来ておらず、今後どのようにすべきか、検討が必要だと思う。
- ・住民だけでなく、行政についても、市役所内でのコミュニケーション不足で他の課の状況が見えていないのではないかと思う。

以 上

対象者	八戸学院大学の学生	No.	2
会場	八戸学院大学	開催日	平成 26 年 10 月 9 日 14 : 00~15 : 30
出席者	八戸学院大学の学生 13 名 大学教員 1 名 事務局 5 名 計 19 名		
<p>1. 八戸市の良い所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海産物、せんべい汁、りんごなどの食の魅力 ・特に中心街に飲食店が多い ・種差海岸などの豊かな自然環境 ・三社大祭などのイベントが立派 ・光星学院の甲子園出場、B 1 グランプリなどにより全国的に知名度が高い <p>2. 若者の定住について</p> <p>(1) 就職について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業後の就職について、意見を聞いたところ、八戸で働きたいと考えている方は 2 名であった。 <p>(2) 定住するための問題点と必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人の問題で、求める仕事がない、求人が少ない、賃金が安いといった状況となっている。仕事は沢山あると思うが、やりたい仕事との相違があると思う。 ・八戸にしかないというものが無い。 ・街並みがあまりきれいではなく、自然も少ないと思う。また、道路状況も良くない。歩道が狭く、路面状態が悪い場所が多いため、自転車で移動しにくい。 ・バスや鉄道の公共交通について、運行本数が少なく不便を感じる。待ち時間を過ごす場所もない。 ・子供の教育に不安を感じるので、幼稚園・小学校の環境を良くすることが必要だと思う。 ・積雪時の除雪があまりうまくないと思う。 ・大学が少なく、大学生が楽しめる施設が近くにない。移動費の問題で、ジャスコに行くのも月 1 回程度となっている。中心街にはほとんど行ってない。魅力的なお店が入れば行く可能性はあると思う。ラウンドワンのスポッチャなどの遊び場が必要だと思う。 <p>3. まちづくりの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に記載しているまちづくりの問題点の中で、最も重要だと思う課題を聞いたところ、都市の魅力向上、生活の安全確保、少子高齢化への対応、経済雇用対策の充実という順番となった。 <p>(1) 少子高齢化への対応 (2 名選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフを見ても明らかに子供が少なく高齢者が多い状況となっており、今後、対応することが増えると思う。街づくりを考えるうえで、人がいないことが一番の課題だと思う。 <p>(2) 生活の安全確保 (3 名選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許を保有していない高齢者にとって公共交通は必須だと思う。 ・高齢者が増えるため、元気な高齢者が働ける環境づくりが必要だと思う。 ・今ある命を守ることが大切だと思う。特に若者が少なく高齢者が多い地域は意識が低いと思う。若い世代が守るといふ防災意識が重要だと思う。 			

(3) 経済雇用対策の充実（2名選択）

- ・雇用の創出が必要。
- ・若者の定住促進の為には雇用が必要。

(4) 都市の魅力創造（6名選択）

- ・他県からの来訪者が八戸市の魅力に気づけば、定住する人もいると思う。中心街にこだわらず市を良くすることが重要だと思う。
- ・観光地が少ないことが問題だと思う。八戸市に住んでいる自分たちが他県からの来訪者をどこに案内すれば良いのか、あまりわかっていない。自分たちが八戸の良い所を発信できれば良いと思う。
- ・イベントを開催できるドームやアリーナを整備し、来訪者が八食センターなどにつながるアフターコンベンションの流れができれば良いと思う。
- ・仙台市の楽天イーグルスやベガルタ仙台など有名なプロスポーツチームができれば、大きな経済効果が期待できると思う。

以 上

対象者	子育て世代	No.	3
会場	はっちシアター2	開催日	平成 26 年 10 月 15 日 11 : 30 ~ 12 : 30
出席者	こどもはっち利用者 10 名 施設スタッフ 4 名 事務局 4 名 計 18 名		

1. 普段子育てをされていて感じる問題点

(1) 子育てに関する情報提供について

- ・子育てに関する情報が入手しづらいので、積極的に情報を発信してほしい。現状ではママ友の口コミで情報を得ているケースがほとんどとなっている。
- ・こどもはっちへの問い合わせが多いことから、保育園・幼稚園情報などを一括して見られるような総合サイトがあれば良いと思う。内容としては、対象年齢、障害児受入状況、サービス内容、一時預かりの有無、料金、未就学教室の有無などが確認できれば良いと思う。
- ・子供を連れて幼稚園・保育園の話聞くために、施設を何ヶ所も回るのは困難なので、合同説明会が開催されると便利だと思う。特に冬場は、足元の状況もあり、移動は困難となる。
- ・児童館・学童クラブの利用についての認知度が低く、地域によって格差があると思う。また、全地域に学童クラブはあるが、人数、場所などの問題で受け入れ人数が足りない状況となっている。

(2) こどもの遊び場について

- ・室内の遊び場が少なく、荒天時など気軽に使える場所が不足している。
- ・また、晴天時は、芝生のある公園は高齢者などがゲートボールで占領していることが多い。

(3) 道路状況について

- ・歩道が狭く、路面状態も悪いため、ベビーカーの移動が大変になる。また、本八戸駅から中心街まで歩く際など、歩道も狭さとともに、路線バスの排気ガスも気になる。
- ・ベビーカーと一緒に公共交通を利用するのは困難なので、バス車内などにベビーカーを置けるスペースが欲しい。また、乗降時に段差のないワンステップバスの車両による運行を希望する。所沢市などのバスでは車内前方にベビーカーの固定ベルトや優先表示がある。
- ・雪が降ると車道の雪を歩道に寄せるため、歩けなくなりベビーカーの移動もできない状況となる。

(4) 医療費について

- ・他地域では、医療費無料の所もある。八戸市に転入されたほとんどの方が高いと感じている。

(5) 医療施設について

- ・小児科は比較的整備されているが、総合病院が少ないと思う。また、出産できる病院も少ない。

(6) 子育て支援の施策等について

- ・子供の遊び場が目の届く範囲にあり、飲食ができる親子カフェのような場所が必要だと思う。
- ・情報交換できる場が必要だと思う。
- ・小さい子供が居ながら、お母さんがリフレッシュできる場が必要だと思う。
- ・核家族化が進んでおり、子供、若いお母さん、おばあさんと触れ合える機会が少ないため、三世代交流ができる場があれば良いと思う。
- ・公民館で行われるカリキュラムは高齢者中心のものが多い。若いお母さん向けの社会教育分野に力を入れる必要があると思う。開催時、施設内に子供を見てくれる方が居ればなお良い。
- ・八戸市のタウンミーティングも若い人の場を別に設けるべきだと思う。行政ではなく NPO 団体が主体になり、ニーズに合わせた時間に、気軽に発言できる場が必要だと思う。

2. その他

- ・水道代、下水道代、灯油代が高い。その分どこかを安くして均衡をとってほしい。

以上

対象者	女性チャレンジ講座受講生	No.	4
会場	市庁別館 2 階会議室	開催日	平成 26 年 10 月 15 日 13 : 30 ~ 15 : 10
出席者	女性チャレンジ講座受講生 20 名 事務局 6 名 計 26 名		

1. 女性の視点から普段、感じる八戸市の問題点

(1) 職場の問題について（仕事や雇用環境）

- ・継続雇用できる職場が少なく、正社員雇用が少ない。パートだと所得制限がある。
- ・女性だけが契約社員のままで長く働いている中で、男性社員は役職がつく。安定しない生活に不満がある。
- ・所得、時給が低い。
- ・時間外業務（サービス残業）が多い。
- ・日・祝日保育が少なく、休日出勤が厳しい。
- ・有給休暇が取りにくい。学校（保育園）の行事への参加を理解してほしいと思う。
- ・小学生の学童保育の受入体制が整っていない。
- ・職場で子供を預ける場所があると働きやすいと思う。
- ・男性の意識が低い。女性が働くことによる男性の家事・育児などの協力が必要だと思う。

(2) 家庭の問題について（家庭生活への支援）

- ・医療費（母子家庭）に所得制限がある。
- ・仕事で遅くなる時、子供の習い事への送迎をお願いできる場所がない。
- ・乳幼児医療費補助が不足している。また、子供のオムツ代を出してくれる市町村もあるので、支援してほしいと思う。
- ・産婦人科が少なく、待ち時間も長い。

(3) 地域の問題について（地域経済や地域活動）

- ・子供が遊べる場所が、歩ける距離にない状況となっている。特に公園が少ないので整備してほしいと思う。
- ・中心街の交通量が多く子供と歩くのがこわい。
- ・子供はっちを利用してはいるが、パーキング料金が安い。また、車を利用する方が多いが、駐車場の少ない。無料駐車場があれば良いと思う。
- ・交通の便が悪いと思う。車社会ではあるが、何らかの理由で免許を取れない人もいる。障害者などに優しくなつくりだと思ふ。また、バスの運行本数が少なく、子供と一緒にだと利用に覚悟が必要となる。
- ・街並みがきれいではない。特に、中心街地や大きな通りの街路樹等が整備されていない。あと、外灯も少ない。
- ・歩道が整備されておらず、歩きにくい。歩道は斜めになっている場所やガタガタな場所も多い。ベビーカーや障がい者は大変だと思う。
- ・女性にとって魅力的なお店（デパートや飲食店等）が少ない。
- ・駐輪場がほとんどない。
- ・除雪作業が下手だと思うので、対応してほしい。

2. 女性が生き生きと活躍し、暮らせるまちに必要なこと

(1) 職場の問題に対して必要なこと

①子育て意識の変化

- ・一人で子育てするのではなく、家族で子育てするという意識が必要だと思う。男性の意識を変えることで、環境整備の問題もクリアされると思う。

②子育て環境整備

- ・子供を預けられる施設を増やすことが必要だと思う。また、子育てサポート支援を充実することが必要だと思う。
- ・他地域や他の企業の良い制度やシステムを参考にすることが必要だと思う。

(2) 家庭の問題に対して必要なこと

①予算の投入

- ・医療費の所得制限、病院の質、オツム代など予算をもう少し投入することが必要だと思う。高齢者対策だけでなく、子育て支援に目を向けることが必要だと思う。

②外出支援

- ・気軽に行ける子供が安心して遊べる場所を整備することが必要だと思う。
- ・施設がもっと利用しやすくなるように、駐車場の確保をして、駐車料金は安くすることが必要だと思う。

(3) 地域の問題に対して必要なこと

①中心部の環境整備

- ・歩道をフラットにして、ベビーカーや車いすが通行しやすいようにすることが必要だと思う。
- ・バスは運行本数を増やすだけでなく、わかりやすくするなど、利用しやすくなることが必要だと思う。
- ・駐輪場を整備することが必要だと思う。冬場は雪を置く場所に活用できる。

以 上

対象者	八戸工業大学の学生	No.	5
会場	八戸工業大学	開催日	平成 26 年 11 月 6 日 16 : 10 ~ 17 : 40
出席者	八戸工業大学の学生 11 名 大学教員 2 名 事務局 4 名 計 17 名		

1. 中心街について

(1) よく行く (1 名)

- ・文具等の買物やカラオケでよく行くことがある。
- ・店舗の閉店時間が早いことと、遅い時間になるとバスが運行されていないことに不満を感じる。

(2) あまり行かない (7 名)

- ・たまに飲みに行ったり、銀行などの所要で行くことがある。
- ・友人や知人に頼まれて、送り迎えに行くことはあるが、自分の用事で行くことはあまりない。
- ・高校在学時 (八戸東高校) は、よく行っていた。
- ・昔は、中心街にイトーヨーカドーや映画館があったので、家族で行く機会があった。

(3) 全く行かない (3 名)

- ・用事や目的を持って行く場所がない。また、どのような店舗があるかわからない。
- ・自動車で行く場合、駐車場が不便に感じる。道が入り組んで細く、一方通行も多い。
- ・アルバイト先も郊外店なので、中心街に用事がない。

2. 若者の定住について

(1) 問題点と必要なこと

- ・子育て支援制度、老後の施設が整っていれば安心して暮らせると思う。産休後の再就職支援も必要だと思う。
- ・お金を使いたいと思う場所がないと思う。買物はネットでも可能で、行きたいと思う店舗がない。
- ・有名アーティストのライブがなく、またライブができる場所もないので改善が必要だと思う。
- ・仕事面での問題が多いと思う。給与が安く、大都市だと福利厚生などが整った大手企業が多い。また、職種の選択肢が少ないと思う。学生や新社会人向けの支援があったら良いと思う。
- ・街の見せ方に工夫が必要だと思う。(例えば、十和田市観光通りや十和田現代美術館など)
- ・遅い時間になるとバスが運行されていないので改善が必要だと思う。また、乗り換えの接続が不便に感じる。
- ・特に不便を感じていないが、今後、八戸市内に定住することは考えていない。八戸市は自動車があれば困らないと思う。
- ・八戸が大好きなので今後も住み続けたいと思う。八戸は「氷都」と呼ばれるので、限られた場所でしか出来ない氷上スポーツにもっと力を入れたら良いと思う。

3. その他

- ・八戸駅前が寂しいと思う。また、駅構内も寒い。駅は街の玄関なので、来訪者の第一印象にもなるので、改善が必要だと思う。

以 上

対象者	地域団体（市連町連絡協議会理事）	No.	6
会場	市庁本館 3 階第 4 委員会室	開催日	平成 26 年 11 月 10 日 15 : 30～16 : 30
出席者	地域団体 5 名 事務局 5 名 計 10 名		

1. 各地区の現状と問題点及び今後の課題について

(1) 館地区連合町内会

- ・昔からある古い地区で、人の出入があまりない地区となっている。
- ・少子高齢化が進展しており、高齢化率が 34%、合併時に約 5 千人いた学校生徒も現在は、約 4 千人に減少している。
- ・小学校生徒とともに、食育ウォーキングや野菜収穫体験を地区で実施している。
- ・健康寿命を延ばすため、いかに健診率を高めるかが重要だと考えている。
- ・一人暮らしの高齢者の自宅にベルを設置し、自宅の中でボタンを押すと、外のベルが鳴り、近所の方が駆けつけられる仕組みを独自に展開している。
- ・地区には未婚者が多いため、婚活活動に力を入れることと、子育てしやすい環境を整えて子供が増えて、地区が明るくなる材料になれば良いと思う。

(2) 湊地区連合町内会

- ・75 歳以上の高齢者が約 1,800 人に対して、小学校生徒数は湊小学校と青潮小学校で約 550 人となっている。湊小学校が最大規模だった頃、約 2,000 人在学していた生徒が現在は約 210 人となっている。
- ・町内会の組織単位は昔のまま 15 町内会となっている。今後、地区が成り立っていくのか不安を感じている。また、現在のインフラを将来、使いこなせるのか不安を感じている。
- ・最も問題なことは、若者の八戸離れで、街に若者がいない状況となっている。若者を市内にとどめる産業施策などが必要だと思う。30 年前までは家業を継ぐために戻ってくることもあったが、今は仕事がないので戻ってこない状況となっている。

(3) 三八城地区連合町内会

- ・町内会ほど全国に多い組織はないので、町内会基本法を制定するなど、町内会加入促進を支援してほしいと思う。

(4) 沼館・城下振興会

- ・工業地帯であるが、大型商業施設ができて以来、市内外からくる人たちが賑わっている。
- ・アパートが多く、町内会加入率が約 43%と低い。安心・安全な暮らしができるように防犯灯の設置や器具交換、またカーブミラーの設置など安全活動を行っていることなど、活動内容を理解してもらうことが必要だと思う。今のままでは、負担が不公平になっている。また、女性役員を入れることで対外的に柔らかい印象になり加入しやすい環境になると思う。
- ・地方から声を大きくし、法律で町内会加入を義務付けしてほしいと思う。

(5) 下長地区連合町内会

- ・昭和 43 年当時、人口は 17,000～18,000 人で県内最大級の団地として 70 億 3800 万円（国費 28 億円）を投入して形成された街となっている。当初は約 80%の加入率であったが、現在は 60%台に低下している。持ち家ではなく、アパート率が高くなってきていることが原因だと思う。

- ・また、平成 22 年に地区で町内会に関するアンケート調査を行ったところ、若い世代の方が活動に興味を持っていないことや個人情報保護法の影響で表札を付けなくなったことが問題であるという結果となった。改善には、不動産会社や P T A との協力が必要だと思う。
- ・東日本大震災以降、地区との連携の必要性を感じて、加入が増えた地区もある。

2. 取り組みを進めるうえで必要なこと

(1) 高齢者対策

- ・将来の安心感を得られるよう介護サービスや介護施設を充実させることが必要だと思う。サービスや施設を充実させて「八戸なら老後は大丈夫」などと打ち出すことも一つの方法だと思う。

(2) 雇用対策

- ・高学歴の人は八戸市内から流出してしまう。Uターン就職できる職場もないので改善が必要だと思う。
- ・八戸の立地の良さなどを P R して、お金をかけず企業誘致することが必要だと思う。雇用を高めるためには行政の力が必要だと思う。

(3) 他団体との連携

- ・ P T A などと連携して、他の関係団体との関わりを持つことが必要だと思う。

3. その他について

- ・現在活躍している 30 代～40 代に対して、町内会に関するアンケート調査を行ってほしい。若い世代の意見を取り入れることが重要だと思う。
- ・地区での集まりの際、子どもの塾などを理由に、途中で帰る方が多い。
- ・男性は、集まりに参加しない方が多い。
- ・町内会で小学校と協力しながら独居老人宅の訪問などを行っている。地域での見守りが重要だと思う。

以 上

対象者	八戸工業高等専門学校 ^の 学生	No.	7
会場	八戸工業高等専門学校	開催日	平成26年11月11日 15:00~16:30
出席者	八戸工業高等専門学校 ^の 学生12名 大学教員1名 事務局4名 計17名		

1. 若者の定住について

(1) 魅力的なこと

- ・食べ物が美味しい。
- ・バス料金上限300円は安くて良い。
- ・種差海岸、蕪島、海の魅力がある。
- ・まちなかに新しい物と古い物が混在していて面白い。
- ・街がきれいで、ゴミが落ちていない。
- ・景色がきれい。時間がのんびりと流れるところが良い。
- ・まちづくりに積極的なところが良い。
- ・中心街に夜の活気があって良い。
- ・津波、停電などに対する防災対策が整っているところが良い。
- ・朝市が良い。

(2) 問題点と必要なこと

①交通

- ・弘前市のように、小さいバス車両で便数を多く運行することが必要だと思う。
- ・函館市のように、中心街だけでも良いので、乗換割引券を出すことが必要だと思う。

②教育

- ・小中学校でもっと地元のこと（工業や遺跡などについて）を教えることが必要だと思う。
- ・外縁部にある大学のサテライトキャンパスを中心部に作り、街に若者を呼び込むことが必要だと思う。地域コミュニティの活動に積極的になると思う。
- ・産学連携が取れていないので、改善が必要だと思う。企業も高専を活かしきれていないと思う。

③地域コミュニティ

- ・地域の人との繋がりをあまり感じないと思う。また、世代を超えてのつながりを感じない。お節介な人がいないと思う。
- ・町内会や保護者の結束力が強いので、良く言えば地域密着だが、八戸市に転入してきた人が溶け込むには時間がかかり、輪に入りづらいと思う。

④施設

- ・娯楽施設、若者が買物をできる場所がない。
- ・行事の際、よくはっちが使われているが、何も入っていないので行くことがない。何が入っているかもわからない。例えば、青森市アウガは、服屋、図書館、ゲームセンター、飲食場所などが入った複合施設で、老若男女問わず居て、混んでいるので、そのような施設があれば良いと思う。
- ・小さい子供と家族で行ける場所がない。

⑤仕事

- ・職種が少ないことが問題だと思う。また、給与面での問題もある。
- ・大手企業参入により資本が流出している。
- ・新たなビジネスを受け入れる体制がない。
- ・地元中小企業が、大手ネームバリューに負けてしまう。
- ・国際産業について、海外に行くのではなく、八戸市に呼ぶことが必要だと思う。

⑥文化・観光・スポーツ

- ・弘前市の弘前城のような文化的な施設がない。
- ・種差海岸は景観的に整備している感じがあまりしない。人がきて楽しめるスペースを作るなどの工夫が必要だと思う。
- ・はっちを作る前に、是川遺跡・史跡根城・種差海岸に着手すべきだったと思う。周りに良いと言われてから動くため、動きだしが遅いと思う。遺跡は観光客への売り込みの要素になり得るが、知っている人からの評価しかない。
- ・市民が身近な物の良さを知らず、受け入れる感性がないと思う。資産があるが気づかないことが多いため、今ある物の評価をできるようになるべきだと思う。
- ・幅広いスポーツを強化する取り組みが少ない。階上岳はインカレで競輪のコースとなった場所なので、整備してレベルを高めることに繋げられるのではないかと思う。

⑦その他

- ・除雪に力を入れてほしいと思う。
- ・まちづくりに教育機関の段階から入っていった方が良い。現在の参加者は特定の人だけのように感じる。
- ・分散された都市機能の利便性を生かせていないと思う。地点間の移動に時間がかかり、自動車を保有していない人は動けないと思う。
- ・首都圏での買物、地下鉄などの利便性と比べると圧倒的な魅力に負けていると思う。
- ・八戸市は、ずば抜けた何かがあるわけではないまちだと思う。
- ・若いうちは人や物があるところに住みたいため、一度は地元を出たい。住みやすいまちになったら八戸市に戻りたいと思う。
- ・資源がありすぎて、気がついていないのか、もったいないと思う。

以 上

(2) 市民ワークショップ

①第1回

- ・会場：市庁別館 2階会議室
- ・開催日時：平成26年10月19日 14:00～16:30
- ・出席者：一般公募市民19名 事務局8名 計27名

第1回市民ワークショップでの意見の概要

まちづくりに活かしたい八戸市の良さ	人	心／人柄・土地柄／受入やすい／始めやすい／つながり
	自然地勢	美しい／豊か／海・山／種差海岸／島守盆地／生物多様性／太陽光発電向き
	文化	国宝／土偶／文化・市民活動の拠点はっち／B1グランプリ発祥
	食	おいしい／豊富／安い／一次産品／海産物／サバ／イカ／せんべい汁
	都市	北東北・周辺を中心都市／広さ・人口規模／海・山まで近い／活気ある／コンパクトな中心街／夜のまち／横丁／新しいお店の立地
	交通	陸・海・空の要衝／便がよい／新幹線／港湾／空港／高速道路
	生活環境	ゆとり／少ない渋滞／短い通勤時間／多い住宅地／充実した公共施設／遊歩道
	産業	多種類／ポテンシャル／トップレベルの工業／畜産業／工業・貿易・漁業の港
	安全安心	医療ヘリ・救急車／浸透しているハザードマップ
	市民力	公民館を中心にした市民活動／強いコミュニティ

分野・視点	現状・問題（○：複数意見）	課題
少子化、高齢化、若者定住、転入促進、人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの減少、学級の減少 ・保育所不足は地域差がある ・子育て女性の就業 ・未婚者が多い ・若者が定住したくなる理由がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て女性への企業のサポート充実 ・元気な高齢者づくり ・結婚の機会づくり ・人口対策は周辺地域との連携が必要 ・若年層が移住して来やすい職・住・教育の環境整備が必要 ・多様な若者ニーズへの対応 ・家探し・店舗探し情報の提供
安全・安心な生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども医療費が有料 ・必要とする災害情報が得にくい ・空き家が多く危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども医療費の無料化 ・夜間・休日診療の充実が必要 ・包括的なハザードマップが必要 ・空き家の活用が必要 ・自然環境保全・生活環境改善のアクションプラン策定
都市の魅力・賑わい、観光	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的・都市的魅力に欠けるまち ・夜のイメージが強いまち（市外の人） ・欲しいものの買い物ができない ・歩いて楽しめないまち ・まちに学生が歩いていない ・書店、娯楽施設が少ない ・食材は良いが、食材を生かした料理のおいしい飲食店が少ない ・来訪者の受入環境が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいと潤いのある中心市街地の形成 ・市民が昼も楽しめるまち ・空き店舗活用 ・中心部への大学の誘致・サテライト ・学生の参加・活躍の場づくり ・朝市での料理コンテスト ・観光地の利便性・安全性向上 ・種差海岸周辺の道路の2車線化 ・観光地の無料駐車場の提供

分野・視点	現状・問題（○：複数意見）	課題
都市交通	<ul style="list-style-type: none"> ○歩道が少ない ○歩道が歩きにくい <ul style="list-style-type: none"> ・車道除雪した雪の歩道への堆雪 ・車なしでは不便なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて暮らせる環境整備が必要 ・バリアフリー化 ・地域による除雪 ・バスの小型化による増便・低料金化 ・公共交通再編等による中心市街地へのアクセス性向上
都市整備	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した建物が多 ・墓の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続、フォローアップが必要 ・事業の効果検証が必要 ・都市マスとの整合をとりつつ連続性ある都市開発のストーリー ・共同墓地の行政管理
文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかアトリノベーション事業が継続されず終了 ・芸術文化に触れられる場が少ない ・スポーツ施設整備が不十分 ・有名なイベント・コンサート会場がない 	-
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○工業都市からの転換 <ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢人口の減少、労働力の減少、就業者の高齢化 ・単年度の産業振興の補助金で継続性がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長産業、エネルギー産業、情報産業への転換とその担い手確保 ・冷涼な気候を活かした産業育成 ・流入人口増加施策、女性・海外労働力の活用、新規事業参入支援（中間支援） ・持続的事業支援 ・一次製品の域内限定販売、付加価値化
自治体運営	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と地域の協働が不足 ・ハード事業に比べソフト事業が不十分 ・公共料金が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携、民民連携が必要 ・ゆるやかで気楽な連携の仕組みが必要 ・指定管理など民間活力を積極的に活用した事業モデルの確立 ・単年度予算方式の見直し
コミュニティ、市民活動、社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ○若者の社会への関心が低い <ul style="list-style-type: none"> ・中心街の町内会・商店街の連携不足 ・世代間交流が不足 ・外国人や独居者に対する配慮不足（差別、偏見など） ・高齢者の活力を生かしきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民立案による公民館活動 ・若者が希望を持てるビジョンづくり ・若者が関心を向ける仕組みづくり
情報・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が少ない ・情報が入手しにくい ・地元の高校競技や工場での製造品など地元情報が発信されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻めの情報発信が必要 ・市全体のポータルサイト ・デイリーなイベント情報の提供

②第2回

- ・会場：市庁別館 2階会議室
- ・開催日時：平成26年10月26日 14:00~16:30
- ・出席者：一般公募市民15名 事務局6名 計21名

テーマ「八戸市の将来像と、それを実現するために何をしたら良いか」

分野・視点	将来像	実現のために何をしたら良いか
<p>暮らし 定住、流入・流出 子育て、教育 結婚、出産 医療、健康 老後、福祉 就業、生きがい 環境、消費、余暇 災害、犯罪、事故</p>	<p><世代間交流が盛んで共存・共栄するまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流が盛んなまち ・世代間交流を生かしているまち ・子どもと老人と一緒に暮らせるまち ・わかち合いのしっかりできた福祉のまち ・外国人など多様な考えの活きるまち ・妊婦が安心できるまち ・女性の就業率が高いまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場として小中学校やコミュニティセンターの空き家を活用したり、公園、公民館等の地域活動への利用を促進するなど子どもと高齢者の交流の場を作る ・交流の場には、新しいコミュニティセンターをセットで作り、相談・支援センターを設置する ・目新しいものをみつけたり作ったら、ココに知らせるという場(サポート)を醸成する ・ワークシェアリング導入企業への助成を行う ・ワークシェアリング職員の待遇改善 ・多文化施策を推進する ・地域、企業への妊婦についての啓発DM等を行う
	<p><生涯現役のまち、健康寿命日本一></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が元気に働くまち ・高齢者の社会参加の活動が盛んで生きがいを感じられるまち ・高齢者が健康に暮らせるまち ・地域に1軒家庭医がいて適切に専門医へいけるしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の就業機会の拡大 ・健康づくり体制の拡充
	<p><子育てが充実し子どもが安心・安全に暮らせるまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心・安全に暮らせるまち ・安心して子育てできるまち ・子育てをシェアするまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの中に公園を整備 ・防犯体制の整備 ・幼稚園、保育園の充実 ・教育環境の整備 ・子育てサービスの地域内への伝承 ・産科の充実
	<p><みんなが助け合い笑顔になれるまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが挨拶するまち ・お互い様と支えあえるコミュニティがあるまち ・助け合うまち ・人とのつながりができやすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかちあいのしくみやイメージを共有する

<p>まち 広がり、規模 土地利用、交通 環境、景観 公共施設、商店 歴史、文化 スポーツ、娯楽 中心街、郊外 広域、周辺地域</p>	<p><行きたくなる、集まりたくなる、歩きたくなるまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用を推進するエコなまち ・施設が集約され歩いて暮らせるまち ・公共交通を利用した後、徒歩で楽しめるまち ・歩くのが楽しいまち ・一人でも歩きやすい、出やすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備（融雪） ・公共施設の集約 ・地域循環バスの運行 ・路線バスの改善 ・凍結する道にヒートポンプを設置する ・車の流入を減らす、車道を減らして歩道を増やす ・車でアクセスしやすいように、いつでも利用できる無料駐車場の整備
	<p><みんなによって安らげる良いまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心商店街を再生したまち ・中心街に水のせせらぎのある憩えるまち ・商店街づくり、小売店が出店しているまちにする ・若者が楽しく住めるまち ・大学生があふれるまち ・横丁、路地裏が楽しいまち ・魅力的なまち、移住しやすいまち、 ・住みやすく明るいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗など借りる ・固定資産税の減税 ・空き家の活用 ・コミュニティによる受け入れサポート ・交流イベントをつくるなどイベントの推進 ・中心街におもしろいものを増やす ・情報交換のできる場所を整備する ・市民が知り合うキッカケをつくる
<p>経済・産業 金融、物価 農林水産業、工業 商業、サービス業 観光、新産業 特産品、流通 企業誘致、起業 労働力、雇用 民間投資</p>	<p><美食観光世界一のまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・美食観光のまち ・食材豊富なまち ・おいしい地元の食材を味わえるまち ・観光資源を生かすまち ・ここにしかないものを生かせる、生かしているまち ・豊かな自然を生かすまち ・交流人口が東北一多いまち ・観光客にやさしいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年観光都市宣言 ・観光予算確保 ・グルメタウンプロジェクトチームの設立 ・観光資源、ブランドづくり ・馬肉、せんべい汁をさらに発展 ・全国への情報発信 ・店がおもてなしを勉強する ・DMOの設立と権限委譲 ・通訳案内士の地域限定制度確立 ・海外ホームステイ協会受入体制整備 ・国際交流研修、留学受入あっせん ・地域観光資源の学習機会の提供 ・観光情報の掲示板
	<p><ポスト新産業都市の全国的エースのまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北東北の中核都市のまち ・港湾設備が東北一のまち ・産業に誇りと自信を持つまち ・仕事のたくさんあるまち ・あるものを生かすアイデアが豊富なまち ・若者もシニアも挑戦したい人がどんどん挑戦して起業や市民活動に取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・当地の気象特性を活かした産業の育成 ・成功体験をつんで、市民の脳をやわらかくする

	<p>組めるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業の盛んなまち 	
<p>地域運営</p> <p>行政、政治 予算、税金 官民・民民連携 社会参加、交流 市民協働、町内会 コミュニティ 市民活動 地区、全市、広域</p>	<p><地域活動やコミュニティが活発なまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動が認められて活力あるまち ・地域コミュニティの強さが日本一のまち ・自分の住む地域を自分たちでつくるまち ・ボランティア活動の盛んなまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業時間や休暇等の条件を市内全体でよくする ・地域活動に対する職場からの評価を確立する ・地域コミュニティ活動の設立に対する助成 ・再就職制度の見直しと補助
	<p><行政、市民が一体となったまち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本筋が通った政策をするまち ・官と民の距離が近いまち ・多様な交流を企画・活用して官民連携を強化したまち ・市民ができることは市民がやる住民中心のまち ・市民同士が高め合うまち ・市民からの提案と参加を基本としたまち ・市民からの意見公募の多いまち ・要望型、意見徴取型ではなく、提案型、実践型で市民参画が進んだまち ・ワンストップで困ったことに対応するまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの組織が集まって八戸市としての方向性を共有する ・一人ひとりが八戸市民であるという意識を持って全員でまちをつくる
	<p><若者を巻き込んだまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代交代がうまくできているまち ・若者の活動を先輩たちが応援、後押ししてくれるまち ・若い人の活動が活発なまち ・教育を受けた子どもたちのような人材が力を発揮できるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩による教育や育成 ・地域の得意な分野を他地域に提供する仕組みづくり ・世代間の交流を増やし互いを理解する機会をつくる ・中高生を八戸のお祭りに参加させ八戸の伝統を継承する
	<p><自分のルーツはちのへ LOVE八戸 好きですはちのへ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が八戸に自信を持っているまち ・まちのかけがえのない良さ、魅力と目指す未来を市民みんなが共有しているまち ・外に出た仲間が戻ってくるまち ・いつもふるさとを恋しく想えるまち ・休日には帰りたくなるまち ・ふるさとの良さを言える人があふれるまち ・子どもを八戸で育てたいと想えるまち ・出身者が戻り、流入者が増えるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外、市外の人たちの意見を市民が知る機会をたくさんつくる

	<ul style="list-style-type: none"> ・地元愛があふれるまち ・自慢できるきれいなまち ・「八戸といえば…」と全国あるいは海外でもイメージされるようなまち ・新しいものと古いものを融合させたまちづくり ・昔、今、未来をつなげるまち 	
情報発信	<p><まちの売り方を考えるまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法がカッコイイまち ・全国に情報発信できるまち ・情報を得やすいまち ・ICTをもっと身近に利用できるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・一流クリエイターなどにHPや発信方法を相談する ・自然に恵まれている、食材が豊富にあるなど八戸の良いところを発信する

3. 意見交換の実施結果概要

- ・それぞれの分野・視点に沿って、今後まちづくりにおいて必要となることについて、意見交換で出された主な意見を整理した。

※【 】：意見の提供者

一般市民「市民ワークショップ参加者」、市民活動「市民活動サポートセンター登録団体」、学生「大学生等」、子育て「子育て世代」、女性「女性チャレンジ講座受講生」、地域団体「市連合町内会連絡協議会理事」

分野・視点	今後のまちづくりにおいて必要なこと
市民協働	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の促進【一般市民、地域団体】 ・地域コミュニティの環境整備【一般市民、学生、地域団体】 ・活動団体や町内会と行政等の連携【市民活動、地域団体】 ・若者の社会参加の拡大【市民活動、地域団体】
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援サービスの充実【一般市民、学生、子育て、女性、地域団体】 ・社会の子育てサポート体制の充実【一般市民、子育て、女性、地域団体】 ・子育てに関する情報提供【子育て、女性】 ・教育環境、遊び場の整備【一般市民、子育て、女性】
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携の推進【学生】 ・地元学、地域学の推進【学生】
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を活かした産業の育成【一般市民】 ・成長産業、エネルギー産業、情報産業への転換【一般市民】
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・労働条件の改善【学生、女性】 ・多様な職種による雇用創出【学生、地域団体】
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的な防災情報の提供【一般市民】
防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・特に子供と高齢者に対する防犯体制の整備【市民活動】
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり体制の拡充【一般市民】
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者づくり【一般市民】 ・高齢者の社会参加の拡大【一般市民、市民活動】 ・介護サービスの充実【学生、地域団体】
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを強化する環境整備【学生】
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源、ブランドづくり【一般市民】 ・観光客の受入環境整備【一般市民】
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道環境の整備【一般市民、学生、子育て、女性】 ・除雪などの冬期対策の充実【一般市民、学生、女性】 ・中心街の賑わいと潤いの創出【一般市民、学生】 ・中心街への若者の呼び込み【一般市民、学生】
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの充実【一般市民、学生】